

AOアレンツ キャンプ . 水野達朗様

水野先生、こんにちは。

AOアレンツキャンプの支援を受けてから11ヶ月を経て、この度卒業させて頂くことになりました。改めて、この一年をふり返ってみたいと思います。

息子は当時、小学3年生。性格傾向は、神経質・自尊心が低い・我慢弱い・完璧主義・引こみ思案……。最たるものは、年齢よりもかなり幼く、自立できていないことが目立つ。という子供でした。

そして、その自立できていない子供にしてしまったのは、他の誰でもなく、親だったのだということを知ることになった1年間でした。

正直自覚はありませんでした。よそ様よりも放任なつもりでさえいた位です。

ですが、家庭教育を学んでいくにつけ、自分の発信する言葉のほぼ全てが命令・指示・提案であったということを知り、驚きました。

1人っ子という事もあり、かなり可愛い可愛いと育ててきました。1人っ子で専業主婦。子供の一举手一投足に目が行って、その都度口を挟んでいたのです。

全て、親として教えなくてはならなければ、導いてやらなければ

と思っただけでしたが、その糸結果、自分では考えられない、決められない子供になっていました。

「どうせ やっても できない。無理だ」とよく言う子で、3年生の時点で、いさがしが使えない、折り紙が折れない、キャッチボールができない、リボンが結べない、ボタンが留められない...等、普通のことかびっくりする程下手で、ちゃんと教えているのに、この子はまるでやる気がない!とイライラが募って「何でそんな事もできないの?」

「そんな事いろいろ聞いて、馬鹿なんですか?」「ほんとに、何一つまともにもできないんだから!」等、彼が傷つくような言い方をしてきました。

そして、だだからこそ糸がもっとちゃんと見てやらねばと、ますます口を挟み、手助けしたりして、どんどん自分で問題を解決する力を、彼から奪ってきたのです。

そんな息子が3年生になってクラス替えになると、仲の良い友達と離れ、新しいクラスに馴染めなくて「過ごして」いました。自分から声をかける事が苦手なので、昼休みも一人で「過ご」している様子。

4月の時点で、クラスの子に叩かれると言いはじめ、5・6月と徐々にいじめはひどくなり、まわりには味方がいない様子でした。(手を出されることもですが、「ムカつく!」「死ぬ!」「消える!」という言葉の暴力に傷ついていました。

6月上旬、徐々に行き渋りが出始め、いじめの事は聞いていたものの、本人が「まだ元身張れる」と言うので見守ってきました。

ですがある日、大泣きで帰宅して「もう二度と学校なんか行かない!!」と言い放ち、翌朝ランドセルを背負ったまま玄関で泣き崩れ、そのまま不登校となりました。

私はそれを後、最初は「いじめのせいだ!」「いじめっ子の所へ話をしに行かなければ!」と思ったのですが、それをしてどうなるのだろうか?と疑問がありました。

いじめっ子に「いじめないで!」と訴えて、仮にいじめがなくなったとして、それはその場しのぎなんじゃないのか? いじめの件を追及することで解決になるのか?と。

私が第一に考えたのは、この子を学校に戻すにはどうすればいいのか?

我慢に我慢を重ねて、爆発して気持ちが行けてしまった銭が子に、「学校はちやんと行かないといけませんよ」と、無理矢理引、張って連れていく事だと、到底できる訳がないと思いました。

(周りは、一旦不登校を許してしまおうと、戻りにくくなるんだから、泣こうが喚こうが連れて行く方がいいという意見がタダ数でした。最初に甘やかしては馬目だ"と...)

ですが、いじが折れている状態で教室に座らせても解決しないような気がしました。

「じゃあ 一体 どうすればいいのか...？」

全くわかりません。不登校という現実には、頭は真、白です。私の兄は、中学1年から不登校になり、その後20年も引きこもっていました。そういう姿を目の当りにしてきた事もあり、とにかく小布くて仕方ありませんでした。

何とかしなければ、何とかしなければ...

何もしなかったら（母は、時の流れに身をまかせてしまったので...）そのまゝ無駄に時が過ぎるだけ。

兄は、あまりにも多くの大切な時間を、無為に過ごしてしまう事になりました。

今現在は社会復帰を果たしてはいますが、失くした時間の重さは計りしれないと言っています。

時間をかければ、心の傷は癒え、前に進めるようになるのかもしれませんが、自家発電できるまで待つことも一つの方法でしょう。

ですが、私はどうしても学校に、一刻りも早く戻してやりたかった。フリースクール等の選択肢は端からありませんでした。

フリースクールを否定するものではありませんが（実際、

どのような場所かも知ることはいいので)
フリースクール等はひたつの道ではありますが、「学校」という、本来有るべき基本の道を進むことを、簡単にあきらめたくはなかったのです。

そこですぐにネットで検索して、数ある小青年報の中から
ヘアレンツキャンプにたどり着きました。
(あの頃は毎日泣きながら必死でした。))

ここならきっと元に戻してやれる。そう判断した決め手は
何だったのでしょうか……。

ブログを読ませて頂いて、先生のお人柄に触れ、
支援を過去に受けられた方たちのコメントやブログ、
復学された方の報告文などは何れもいり強かったし、
先生の発信される文面から、「子供にとってどうか、子供
はどう思うかという様子は、常に子供達のことを
真剣に考えておられるというのを感じて、決めさせて
いただいた様子は気がします。(一貫して「子供は学校に戻す!」という姿勢))

初めてのお電話では、泣いてたんだが上手くお話をでき
なかったような記憶がございいますが、とても話し易くて
もうその時には、支援を受けることを決めていました。

それ以降も、頭ではわかっていても実行できないことのくり返しで、先生も呆れていらつたのかもかもしれません(笑)

大人の考えや性格を変えるのは大変でした。これが一番の大きな壁だったのかもかもしれません。

ですが、少しずつでも何とか自分の子育てを変えていくと、それに対しての子供の変わり様は、皆さん言われる様には、まるで魔法を使つたかのようにみるみる変わつていったのです。

言い方を少し変えただけ。余計な事を言わなくなつただけ。たつたこれだけの事で？ 子供が動きたがったんです。素直になつたんです。

そうやって成果が見えてくる様になると、ようやく先生を全面的に信頼しはじめたような気がします。(申し訳ありません→)

家庭教育を学んでいく上で思つた事は、ここにあるスキルは家庭教育に納まらず、人間関係全てにおいて引用すべきことなのだな、という事でした。

子供だけじゃなく、誰に対してもここでの教えが活かされます。私が子供の立場なら、ものすごく嫌な気持ちになるな、と思うような事を言ってきたらあ、振り返るとゾッとしますね。(まあ子供に言う様にまでキツくは他人には言いませんが、ある程度違つた物の言い方をしているんじゃないかと...))
イコール、気持ちの良いい会話ができている事もあるんじゃないかと思っています。

常にこの気持ちをお忘れないうで、子供の持つ力を
信じて、あくまで子供の後ろで見守るという姿勢で、
これからもやって行きたいと思っています。

水野先生、並びに「訪問カウンセリング」の先生方。
改めて本当にありがとうございました。
そして、これからも又、親の会などでお会いできるのを
楽しみにしています。

2011年、6月